

『大津版災害時ファーストコンタクト』資料について

はじめに

強い余震が繰り返し起こるような危険な災害現場で、二次的な被害を防止するために必要な知識は？技術は？

大津市消防局では、倒壊家屋内に取り残された人（要救助者）がいることを想定し、これに対処する訓練『大津版災害時ファーストコンタクト』の運用を平成29年4月より開始しました。

この訓練は、災害現場が危険な場所であることを強く認識いただくため、安全管理の視点を加えた実災害への対応型訓練となっています。

この訓練は、市民の方々に直接お伝えするのではなく、『大津市消防団地域防災指導員』や『大津市防災士』の方々にお手伝いをいただきながら、地域に広めていくことを考えています。

今回の資料は、『大津市消防団地域防災指導員』や『大津市防災士』の方々にご確認いただくものとして掲載します。

1 「大津版災害時ファーストコンタクト」命名理由

ファーストコンタクト（First contact）を直訳すると、『最初の接触』『最初に会ったり、情報を交換したりする』等に解されます。

災害時、自助による自らの命を守ることは重要ではありますが、被害の軽減には共助の力は不可欠となります。そして、初動対応が重要となります。

災害が発生した際には、地域におられる住民の皆様同士で始めていただく助け合いが、大きな共助活動となるようお願いを込め、また、地域の被害が最小限の止めていただけるよう命名しました。

また、ここ大津から全国へ発信できる地域活動になることも名前に込めました。

2 「大津版災害時ファーストコンタクト」を広めるために

(1) 第一段階

「大津版災害時ファーストコンタクト」は、フォローアップ研修の機会を捉え、消防職員が『大津市消防団地域防災指導員』及び『大津市防災士』の方々にお伝えします。

(2) 第二段階

上記(1)で、「大津版災害時ファーストコンタクト」の知識や技術を得た『大津市消防団地域防災指導員』及び『大津市防災士』の方々と消防職員と一緒に、地域の訓練等の機会に、住民の皆様にお伝えします。

(3) その他

この訓練は、危険なことをしていただくことにもなります。『大津市消防団地域防災指導員』及び『大津市防災士』が訓練に立ち会うからと言って、消防職員がいないままで訓練をしないでください。訓練をされる際は、必ず最寄りの消防署にご相談ください。

3 資料について

今回、掲載しました資料は次の3種類です。（他の資料は時期をみて掲載します）

- 00 絶対に必読！
- 01 安全管理【理論編】
- 02 安全管理【実践編】

4 その他

「大津版災害時ファーストコンタクト」のイメージ動画を、You Tube に掲載しています。